シリーズ

「私の森語り」

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。

「和傘を未来につなぐために」

一般社団法人 岐阜和傘協会
和傘轆轤職人見習い
長屋　糸織（写真左）

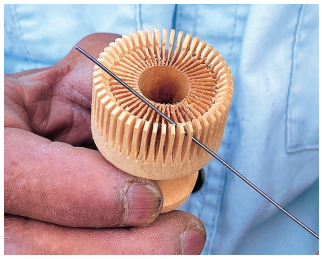
■自己紹介

一般社団法人岐阜和傘協会に所属し、和傘の傘骨をつなぐ要の部品「傘ロクロ」を作る全国唯一の職人、長屋一男の元で後継者として修業をしています。

■活動内容

岐阜では、傘ロクロ製作に最適の材料として適度な硬さとしなやかさを併せ持つエゴノキが使われてきました。傘骨の数に応じてスリットを入れ、その一本一本に糸を通す穴を開ける加工にも耐え得るので、まさに傘ロクロのための木「ロクロ木」と呼ぶ人もいます。

二〇一二年にエゴノキを山から切り出す人が絶え、現在まで材料の調達は「エゴノキプロジェクト（以下「エゴプロ」）」というボランティアによる収穫で助けてもらっています。エゴプロでは、ただ材料を切るだけでなく植生調査や保護活動も行って、持続可能な収穫を目指してきました。



傘ロクロ

しかし、シカの食害により計画は大きく狂ってしまいました。シカから守るため、一昨年から森の一部を保護柵で囲い、その中では切り株から萌芽したエゴノキが育ち始めました。しかし、適寸に育つまでの約十年間、材料確保が課題です。

和傘は日本の文化や風景のひとつとして欠かせない存在です。和傘を未来につなぐためには、まずは原材料の未来がつながらないといけません。

かつて和傘の需要が高かった頃、里山を知り尽くした炭焼き職人たちが森でエゴノキを選り分けてくれていました。今ふたたび里山を活用して伝統工芸の未来がつながることを夢見ています。

みんなで協力して、和傘づくりに必要なエゴノキを調達

■メッセージ

岐阜県・近隣県で傘ロクロの材料として使えるエゴノキの群生地情報がありましたら教えていただきたいです。

材料として使えるエゴノキの条件
- 胸高直径四～六センメートル
- 直通で年輪が十～十五年ほどあり密な木質のもの
- 二メートルで一本換算

また、昨年より岐阜市内小学校二校と連携して、苗の育成と植樹活動を行っています。植樹やエゴプロへの参加等、ご興味のある方はお気軽にお問い合わせください。

○連絡先
〒501－6003
岐阜県羽島郡岐南町平島7－26
(有)長屋木工所
電話：058－247－2848
メール：rokuroya2518@gmail.com
エゴノキプロジェクト実行委員会
egonoki-project.com